

令和6年度 特別の教育課程の編成の方針について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立鹿島小学校（外 10 校）	鹿嶋市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の編成の方針に係る公表に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針に係る公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立鹿島小学校	http://www.sopia.or.jp/kasyo/wp/%EF%BC%97%EF%BC%8E

2. 特別の教育課程を開始又は変更した年度（特例の適用開始日）

2007年4月

2018年4月 変更

* 取組の期間

2030年4月まで

3. 特別の教育課程の概要、特別の教育課程を編成する際の各教科等の授業時数

急速なグローバル化の進展の中で、英語力の一層の充実は我が国にとって、極めて重要な問題であり、国民一人一人にとって、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になる。その際、国際共通語である英語力の向上は日本の社会にとって不可欠である。これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

4. 地域や学校の特色とその特色を活かして特別の教育課程を編成して教育を行う理由

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2021年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力の世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

5. 実施の効果、課題および方向性

(1) 特別の教育課程の編成・実施の効果と手立て

本校の学校組織目標として「表現力の向上」を掲げ、全教科で児童の思いや考えを引き出し、主体的・対話的な学びのある授業を推進してきた。低学年の外国語活動においては、児童にとって身近な内容の単語や表現を英語で学ぶことにより、多くの児童が積極的に英語で自己表現をしようとしている。

その結果、「外国語活動の授業が楽しい（どちらかというとも楽しいを含む）」と感じている児童は、1年生では97.4%、2年生では94.3%となった。また、「英語を話せるようになりたい（どちらかというとも話せるようになりたいを含む）」と思っている児童は、1年生

では 93.4%、2 年生では 92.4%となった。英語を使って自分の気持ちを表現できるようになりたいと望む児童が多いことが分かる。

（2）課題の改善のための取組の方向性

バランス良く 4 技能を育成するために、自分の本当の気持ちについて既習事項を用いながら行う「Small Talk」と「目的・場面・状況」を明確にした言語活動を来年度も継続して行っていきたい。読む力、書く力においては、音と文字のルールを取り入れた読み書きの指導を実施する。また、聞いたり話したりして慣れ親しんだ表現で書かれた文章を読み、必要な内容を読み取る活動等を取り入れていきたい。